文化スポーツ観光部

実施計画事業

令和６年度　事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	2	項	1	目	7	説明資料	20	項目番号	2(1)

事務事業名	都市魅力PR事業	所管部課名	文化スポーツ観光部 企画課

（１）事務事業の概要

実施分類	直営	財源構成	国・県	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							

実施計画			分野別計画
	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興	
	中柱	音楽やダンス・エンターテイメントによるにぎわいの創出	
	小柱	④大河ドラマの活用	

目標	横須賀らしいエンターテイメントによる賑わいづくりや話題性のある取り組みを横須賀の都市の魅力として情報発信を行うことにより、市内外からの集客を生み、市内経済の活性化を図る。
目標達成に必要なこと	・音楽、スポーツ、エンターテイメント、地域資源を活用した取り組みなどを都市魅力として、情報発信を行う。 ・伝えたい情報に適した媒体を検討し、時世にあった発信を行う。
具体的な事業内容	本市の特性やポテンシャルを生かした新たな都市魅力を創出、PRするための取り組みを行う。 エンターテイメントをテーマに、アートやダンス、音楽、地域資源の活用に関する発信力の高い取り組みを実施することで、街の賑わいを創出し、新しい都市魅力に繋げる。

（２）本事務事業における主な活動の実績

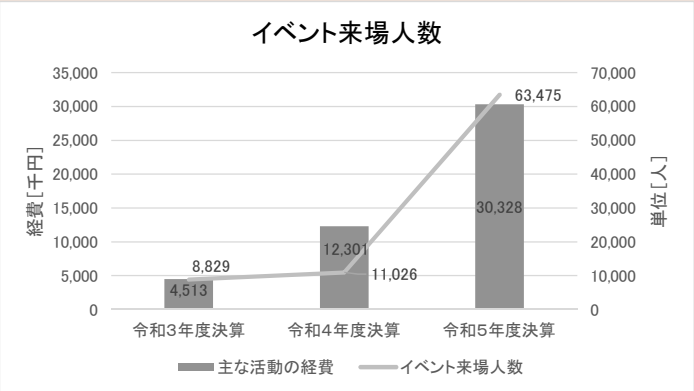
主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った**重要な項目１つ**)	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
① 本市の特性やポテンシャルを生かした都市魅力の発信	イベント来場人数	8,829	11,026	63,475	人

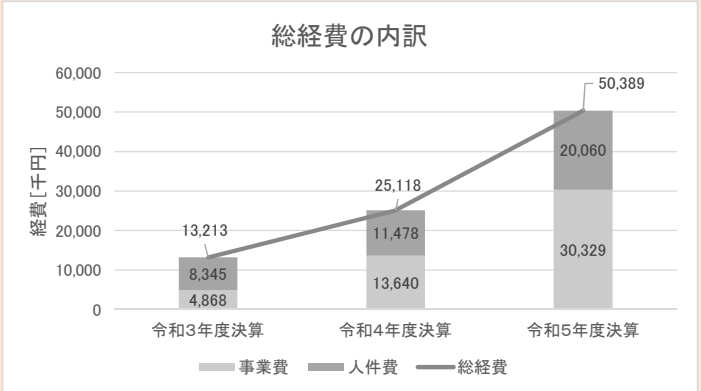
その他の活動実績	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
②					
③					

（３）１年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区　分	令和３年度決算	令和４年度決算	令和５年度決算	令和５年度予算	単位
a　事業費（予算現額・支出済額）	4,868	13,640	30,329	35,258	千円
主な活動の経費（※上記(２)①）	4,513	12,301	30,328	35,258	千円
その他の活動経費（※上記(２)①以外の経費）	355	1,339	1	0	千円
b　人件費	8,345	11,478	20,060	20,209	千円
正規職員	1.0	1.0	2.0	2.0	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	0	3,047	3,268	3,311	千円
総経費（a　＋　b）	13,213	25,118	50,389	55,467	千円

（４）年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(２)①）】と【総経費の内訳】）





主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R3年度⇒R4年度	令和3年度までの取り組みに加え、令和4年度には、各種ダンス大会の誘致開催及び浦賀ドックを活用したイベントの実施と情報発信を行った。	主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R4年度⇒R5年度	令和4年度までの取り組みに加え、エンターテイメント誘致事業にて実施していた「大河ドラマを契機とした三浦一族に関連した取り組み」及び「浦賀ドックを活用したイベント」を実施した。また、民間事業者と連携した大規模イベント等（横須賀オクトーバーフェスト、イルミネーション）に関する取り組みを実施した。

年度ごとの推移の分析（【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等）	令和4年度は、令和3年度で実施した音楽ライブ、猿島アートプロジェクト情報発信の継続に加え、ダンス大会及び浦賀ドックを活用したイベントの実施と情報発信を行ったことにより、活動実績、総事業費（約7,000千円）ともに増となった。 令和5年度は、令和4年度にエンターテイメント誘致事業として行ったNHK大河ドラマを契機とした取り組みや浦賀ドックを活用したイベントなどの地域資源を活用したPRを、都市魅力PR事業として実施したため、その分の経費（約6,400千円）と当事業の活動実績が大幅増加した。 また、民間事業者の開催する大規模イベント等と連携し、様々な取り組み（横須賀オクトーバーフェストでのシャトルバス、横須賀ウインターイルミネーションなど）を実施した分、経費（約17,000千円）が増加しているが、合わせて活動実績も増加している。

今後の事業の方向性	時世にあった情報発信を継続するとともに、史跡や自然、景観などの本市の地域資源を生かした取り組みを実施する。 また、エンターテイメント誘致事業で実施していた「注目される契機となるような話題性のあるイベントなどを誘致」し、地域資源の活用、地域活性化につなげることで、「本市の都市魅力」の認知の拡大と定着を目指す。 （エンターテイメント誘致事業は令和5年度末で廃止となり、都市魅力PR事業にて引き継いで実施する）

令和６年度　事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	2	項	1	目	9	説明資料	23	項目番号	2(5)

事務事業名	ルートミュージアム推進事業	所管部課名	文化スポーツ観光部 文化振興課

（１）事務事業の概要

実施分類	部分委託	財源構成	市単	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							

実施計画			分野別計画	
	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興		
	中柱	ルートミュージアムのさらなる強化		
	小柱	①ティボディエ邸と周辺の仕掛けづくり		

目標	ルートミュージアムの中核拠点である「ティボディエ邸」の管理・運営を行うとともに、ティボディエ邸及びルートミュージアムの認知度向上と集客促進に向けた取り組みを行い、多くの観光客に市内周遊を促し、長時間の滞在と消費増を目指し、地域経済の活性化を図る。
目標達成に必要なこと	ティボディエ邸館内の魅力向上を図るとともに、ティボディエ邸周辺でのイベント等との連携や主催イベント等を実施することで認知度の向上と来館契機を創出し、集客と周遊を促す。
具体的な事業内容	・ティボディエ邸の管理運営 ・ティボディエ邸の認知度向上と来訪を促すためのパンフレット制作 ・周遊を促すVRコンテンツ制作と周知PR

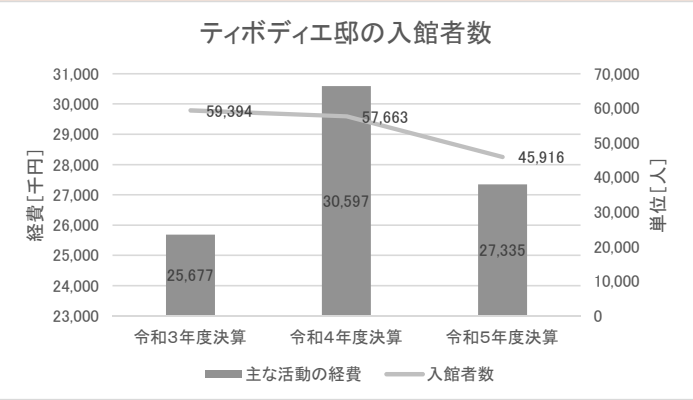
（２）本事務事業における主な活動の実績

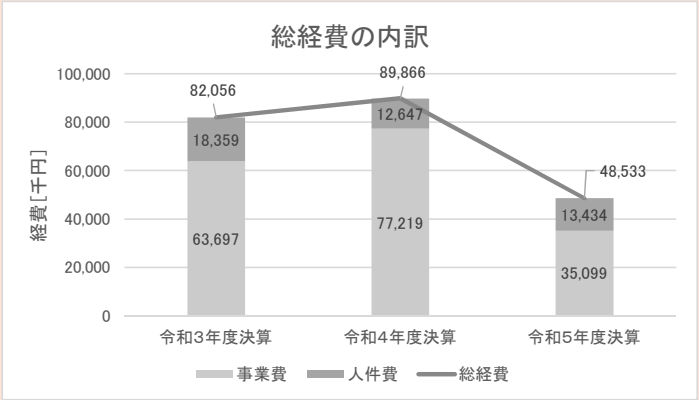
主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った**重要な項目１つ**)	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
① ティボディエ邸の入館者数	入館者数	59,394	57,663	45,916	人
その他の活動実績	**活動（指標）名**	**令和３年度**	**令和４年度**	**令和５年度**	**単位**
② ティボディエ邸のパンフレット制作	印刷部数	30,000	3,350	26,000	部
③ VRアプリのダウンロード数	ダウンロード数	5,231	7,229	4,612	回

（３）１年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区　分	令和３年度決算	令和４年度決算	令和５年度決算	令和５年度予算	単位
a　事業費（予算現額・支出済額）	63,697	77,219	35,099	35,654	千円
主な活動の経費（※上記(２)①）	25,677	30,597	27,335	27,345	千円
その他の活動経費（※上記(２)①以外の経費）	38,020	46,622	7,764	8,309	千円
b　人件費	18,359	12,647	13,434	13,518	千円
正規職員	2.2	1.5	1.6	1.6	人
再任用職員（短時間を含む）					人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）					千円
総経費（a　＋　b）	82,056	89,866	48,533	49,172	千円

（４）年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(２)①）】と【総経費の内訳】）





主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R3年度⇒R4年度	指定管理者が変更になった。 自主イベントを開催することができた。 シアター新作映像を制作した。（公開は令和5年6月3日）	主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R4年度⇒R5年度	シアター新作映像を公開した。 ティボディエ邸について網羅するガイドブックを制作した。 立地するヴェルニー公園内に案内版を2か所設置した。

年度ごとの推移の分析（【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等）	R4に制作した新ムービーを公開し、大きく周知、展示の一部を合わせて変更するなどした。また、お土産にもなる、ティボディエ邸の建築から展示までを網羅したガイドブックを制作、販売開始し、好評を得ている。さらに誘客につなげるため、ヴェルニー公園内にティボディエ邸を紹介する案内板を設置、英文表記も入れてインバウンド需要も図った。その他クリスマスフランスデーなどイベントも実施した。 【R3→R4】R5年度がペリー来航170周年であるため、ペリー来航をテーマにした新ムービーを制作した。展示制作分の経費が減ったが、新ムービーを制作したことにより、全体で増となった。来館者数は引き続きコロナの影響で増えなかった。 【R4→R5】新ムービーの制作費用の減により、総経費も大幅な減となった。来館者数は前年度と比較して繁忙期の休日に悪天候が多かったことや、夏場の落ち込みが大きかったため、低迷した。
今後の事業の方向性	新しい映像や、隣接のレストランや大規模イベントとの連携など、今ある魅力ある資源を最大限に活用して、よこすか近代遺産ミュージアムティボディエ邸の魅力を発信することにより、誘客を図り、横須賀市全体の観光周遊促進に寄与したい。

令和６年度　事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	2	項	1	目	9	説明資料	25	項目番号	2(6)

事務事業名	街なかミュージック支援事業	所管部課名	文化スポーツ観光部 企画課

（１）事務事業の概要

実施分類	部分委託	財源構成	その他	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定		
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務								
根拠法令									
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画			
	中柱	音楽やダンス・エンターテイメントによるにぎわいの創出							
	小柱	①音楽によるにぎわいづくり							
目標	市、事業者及びアーティストが協力し、街なかをステージとした音楽ライブの場を創出・提供していくとともに、アーティストやその活動、イベント情報を発信し、常に音楽のあふれた、ワクワクする街づくりを進めていく。								
目標達成に必要なこと	街なかで音楽に触れ合う機会の充実として、音楽ライブの実施やいつでも音楽を奏でる場所を提供するとともに様々な媒体で情報発信する。								
具体的な事業内容	・音楽ライブの実施 ・アーティストの出演の場の創出 ・ヨコスカ街なかピアノの設置 ・WEBサイトやSNS等での市内外への情報発信								

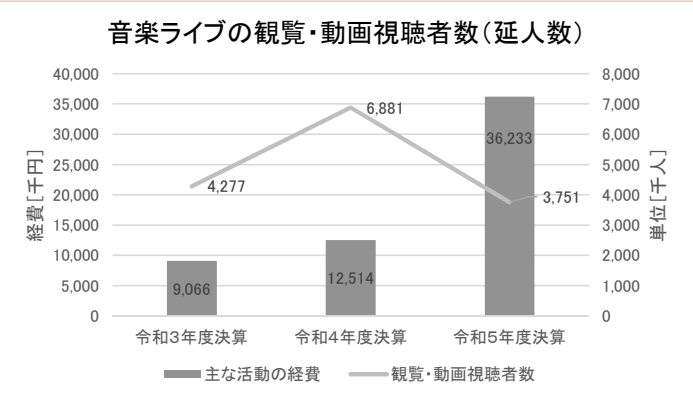
（２）本事務事業における主な活動の実績

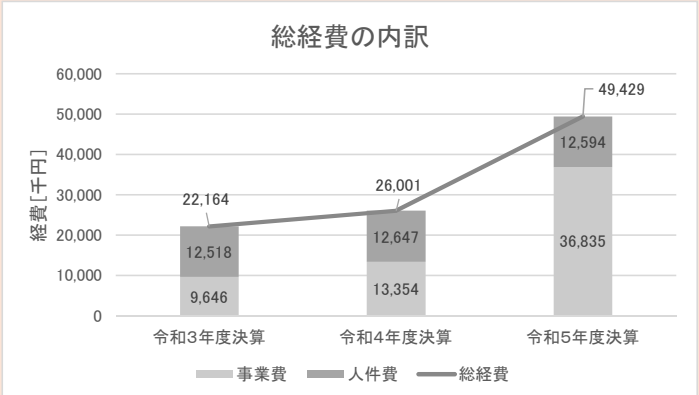
主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った**重要な項目１つ**)	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
① 音楽ライブの開催	観覧・動画視聴者数	4,277,056	6,881,174	3,750,980	人
その他の活動実績	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
②					
③					

（３）１年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区　分	令和３年度決算	令和４年度決算	令和５年度決算	令和５年度予算	単位
a　事業費（予算現額・支出済額）	9,646	13,354	36,835	41,022	千円
主な活動の経費（※上記(２)①）	9,066	12,514	36,233	40,291	千円
その他の活動経費（※上記(２)①以外の経費）	580	840	602	731	千円
b　人件費	12,518	12,647	12,594	12,674	千円
正規職員	1.5	1.5	1.5	1.5	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	0	0	0	0	千円
総経費（a　＋　b）	22,164	26,001	49,429	53,696	千円

（４）年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(２)①）】と【総経費の内訳】）





主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R3年度⇒R4年度	・街なかでのライブ開催に加え、オンラインによるライブ模様の配信を継続的に行った結果、650万回を超える動画視聴回数となった。 ・平和中央公園などで音楽アーティストの演奏風景の動画を配信するなど、音楽を活用した地域資源の魅力PRを行った。	主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R4年度⇒R5年度	・コロナによる社会情勢の変化から、従来の生活様式に戻りつつあることを鑑みて、オフラインでの音楽ライブを開催した。 ・音楽に触れ合う機会の創出や市内周遊に伴う消費の拡大につなげるため、既存のジャズイベントと同時期に、ロックをテーマにした新たなイベントを開催した。
年度ごとの推移の分析（【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等）	・令和2年度から新型コロナウィルス感染症の影響により、新しい生活様式に対応したオンライン配信などの事業展開を継続的に実施した結果、令和3年度は400万回、令和4年度は650万回を超える動画視聴回数となり、多くの方に街なかミュージックライブを通して、横須賀の魅力をPRできた。 ・令和5年度は、新規事業として大規模音楽イベント（バンドコンテストやジャズをテーマにしたオフラインの音楽ライブ）を実施して、実際に市内へ誘客を図ることで街なかの賑わいを創出するとともに、同時にオンラインでの発信を行うことで、広く横須賀の魅力をPRした。観覧・視聴数としては、コロナによるオンライン配信の需要が落ち着いてきたこともあり減少することになったが、実際の集客を伴う音楽ライブを開催することにより市内消費を促進した。総経費は主に新規事業となった大規模音楽イベント（約27,000千円）の分が増加している。		
今後の事業の方向性	常に音楽のあふれた街の実現に向けて、街なかでのライブや音楽活動の場の創出を進めていくとともに、令和2年度から実施したSNSでの配信を強化し、全国の音楽ファンに横須賀ならではの自然や歴史ある街の魅力を音楽と併せて発信していく。		

令和６年度　事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	2	項	1	目	9	説明資料	25	項目番号	2(7)

事務事業名	エンターテイメント推進事業	所管部課名	文化スポーツ観光部 企画課

（１）事務事業の概要

実施分類	直営	財源構成	国・県	受益者負担	あり	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画 大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興			分野別計画			
実施計画 中柱	音楽やダンス・エンターテイメントによるにぎわいの創出			分野別計画			
実施計画 小柱	②ダンスによるにぎわいづくり			分野別計画			
目標	アート、ダンス、音楽を切り口とした横須賀らしいエンターテイメントによる継続的な賑わいづくりを、横須賀の都市魅力として内外に発信する。エンターテイメント＝横須賀のイメージが広く認識されることにより、地域ブランド力の向上と地域活性化を目指す。						
目標達成に必要なこと	・横須賀ならではの地域資源の活用 ・民間企業との連携による、より話題性の高い取り組みの実施						
具体的な事業内容	エンターテイメントをテーマに、アートやダンスに関する発信力の高い取り組みを実施することで、街の賑わいを創出し、新しい都市魅力に繋げる。						

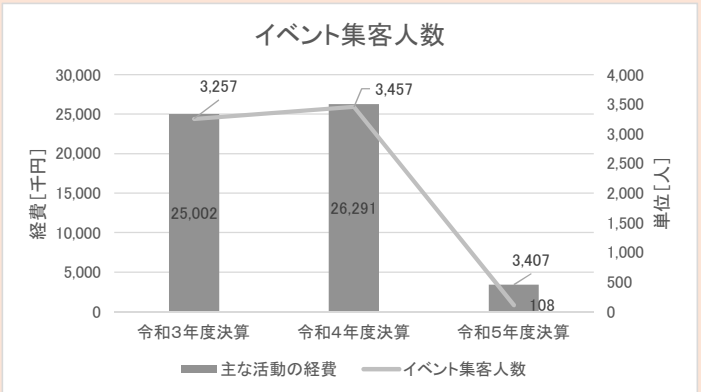
（２）本事務事業における主な活動の実績

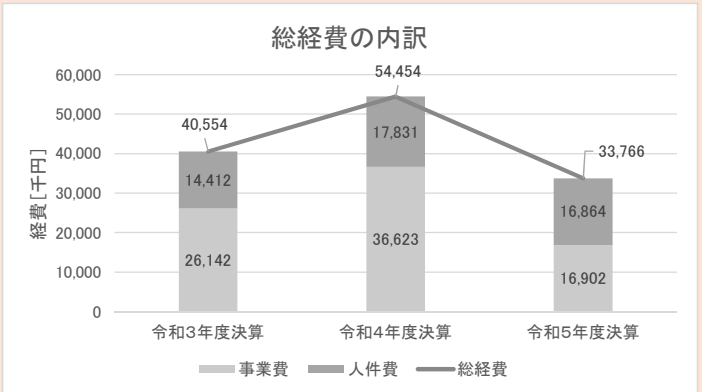
主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った**重要な項目１つ**)	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
①「猿島アートプロジェクト」の実施	イベント集客人数	3,257	3,457	108	人
その他の活動実績	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
②「ダンスプロジェクト」の推進	プロジェクト参加者	118	3,287	4,415	人
③					

（３）１年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区　分	令和３年度決算	令和４年度決算	令和５年度決算	令和５年度予算	単位
a　事業費（予算現額・支出済額）	26,142	36,623	16,902	22,793	千円
主な活動の経費（※上記(２)①）	25,002	26,291	3,407	3,000	千円
その他の活動経費（※上記(２)①以外の経費）	1,140	10,332	13,495	19,793	千円
b　人件費	14,412	17,831	16,864	18,506	千円
正規職員	1.0	1.5	1.4	1.4	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	6,067	5,184	5,110	6,677	千円
総経費（a　＋　b）	40,554	54,454	33,766	41,299	千円

（４）年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(２)①）】と【総経費の内訳】）





主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R3年度⇒R4年度	令和3年度は、会期を11-12月から1-3月に変更し、来場者数の制限および開催時間の短縮などの対策を講じて開催した。令和4年度は、会期を11-12月に戻し、陸側での作品展示や美術館でのワークショップ開催などにより、猿島アートプロジェクトの面的な拡充を試みた。	主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R4年度⇒R5年度	令和5年度は、猿島アートプロジェクトの本開催を中止し、これまでの開催実績の振り返りと、本市の地域資源の再調査を行い、令和6年度リニューアル開催の方向性を検討すると共に、リニューアル開催に向けたプレイベントを3回行った。その他の活動実績においては、新たに小中学生を対象としたジュニアダンス大会を実施した。

年度ごとの推移の分析（【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等）	・令和3年度：猿島アートプロジェクトは、会期を11-12月から1-3月に変更して開催した。令和2年度の中止と、令和3年度の会期を延期して開催したことに加え、会期が蔓延防止措置期間となったことから来場者数は減となった。一方で、夜間に離島で開催する芸術祭であることからメディアの反響は大きく、令和元年度55件だった掲載件数は、令和3年度は95件と大幅に増加し、次年度に繋がる情報発信を進めることができた。 ・令和4年度：会期を11-12月に戻し、陸側での作品展示や美術館でのワークショップの開催などにより、猿島アートプロジェクトの面的な拡充を試みた。また、優れた地域の取り組みとして、日本最大のデザイン賞である「GOOD DESIGN AWARD 2022」を受賞することができた。また、令和4年度から新たにダンスプロジェクトを実施したため、その経費（約8,000千円）分増となっている。 ・令和5年度：開催実績の振り返りと地域資源の再調査を中心に実施し、集客イベントの開催は3回であったため、かかる経費（約22,884千円）が減じ、活動実績数は108人に留まった。
今後の事業の方向性	主な活動においては、令和5年度の調査・検討をもとに、会場の拡充やインバウンド誘客などを含めて規模を拡大して隔年の開催とする。 その他の活動においては、全国規模のジュニアダンス大会を新たに誘致し、BMX国際大会などとの相乗効果により、アーバンスポーツの街としてのイメージ定着を図る。

令和６年度　事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	2	項	1	目	20	説明資料	34	項目番号	2(1)

事務事業名	美術館展覧会事業	所管部課名	文化スポーツ観光部 美術館運営課

（１）事務事業の概要

実施分類	直営	財源構成	その他	受益者負担	あり	事業終了の見込	未定
分類	法律や政令で実施が定められているものの、その実施内容や実施方法、実施体制については市に委ねられている業務						
根拠法令	博物館法						

実施計画		分野別計画	
	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興	横須賀市教育振興基本計画
	中柱	ルートミュージアムのさらなる強化	
	小柱	⑥美術館の集客力の向上	

目標	次世代を担う子どもたちを含めた多くの人々が、質の高い美術に対する深い理解と親しみを得て、心の豊かさを充足する機会を提供する。また、郷土ゆかりの作品を展示し、市民や作家の交流を通じて、新たな文化を発信する。
目標達成に必要なこと	すべての人に開かれた美術館であるために、年間の企画展・所蔵品展を通じて幅広いジャンルの展覧会を開催する。展覧会の効果を最大限発揮するために、教育普及事業や、他部課や民間事業者と連携をはかる。
具体的な事業内容	・多くの人に親しみやすく、集客を見込める展覧会の開催。またそれに関連する野外イベント等の実施。 ・親子を対象にした、質が高くかつ身近に感じられ、美術館に親しめる内容の展覧会の開催。 ・横須賀、三浦半島という地域に関連のある展覧会の開催。 ・横須賀美術館のコレクションを核とし、調査研究をふまえて新たな着眼点で構成する所蔵品展、谷内六郎展の開催および情報発信。

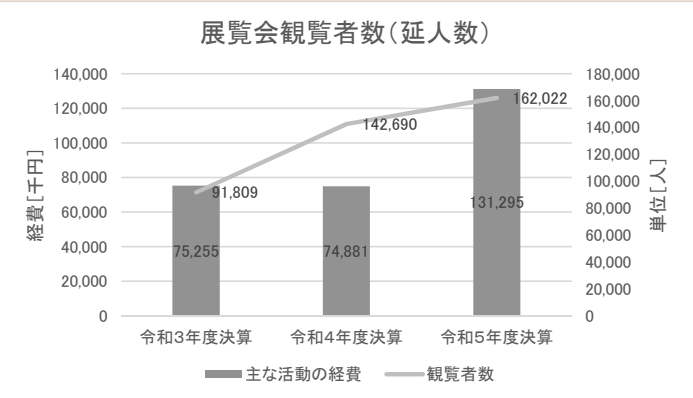
（２）本事務事業における主な活動の実績

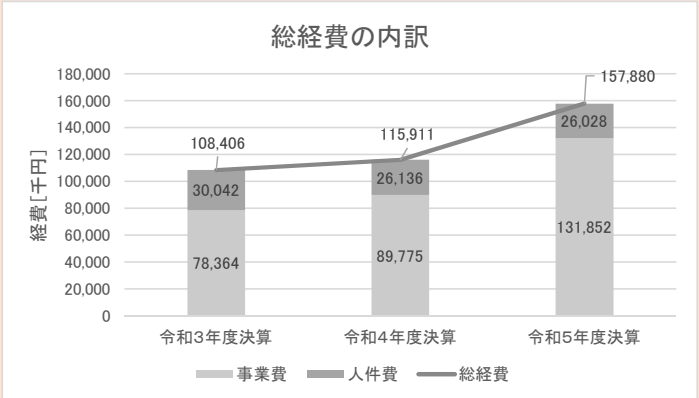
主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った**重要な項目１つ**)	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
① 展覧会開催	観覧者数	91,809	142,690	162,022	人
その他の活動実績	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
② 展覧会に関連した野外イベント等の開催	開催回数	3	3	3	回
③					

（３）１年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区　分	令和３年度決算	令和４年度決算	令和５年度決算	令和５年度予算	単位
a　事業費（予算現額・支出済額）	78,364	89,775	131,852	91,429	千円
主な活動の経費（※上記(２)①）	75,255	74,881	131,295	90,789	千円
その他の活動経費（※上記(２)①以外の経費）	3,109	14,894	557	640	千円
b　人件費	30,042	26,136	26,028	26,192	千円
正規職員	3.6	3.1	3.1	3.1	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	0	0	0	0	千円
総経費（a　＋　b）	108,406	115,911	157,880	117,621	千円

（４）年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(２)①）】と【総経費の内訳】）





主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R3年度⇒R4年度	R4年度に教育委員会から市長部局へ移管した。この年は、地域の文化財に着目した特別展「運慶展」や「スカジャン展」を開催し、大きな反響を得た。またコロナによる休館はなかった。	主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R4年度⇒R5年度	R5年度から箱根との観光誘客連携の取り組みの一環として、箱根エリアの美術館の展示や、サブカルチャーを題材にした「日本の巨大ロボット群像展」、そして「鈴木敏夫とジブリ展」を開催して、大きな反響を得た。

年度ごとの推移の分析（【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等）	主な活動実績として「展覧会開催」を掲げており、R3年度はコロナ禍という状況で、臨時休館が増えたため、観覧者数がやや低くなった。R4年度はコロナも落ち着き始め、また市長部局への移管があり、「運慶展」や関連事業として能楽公演、地域と連携して取り組んだ「スカジャン展」を開催した。多くの方に足を運んでいただき、観覧者数は大きく伸びた。 R5年度は箱根エリアとの連携企画第1弾として箱根ラリック美術館の展示や、サブカルチャーを題材にした「日本のロボット群像展」、そして何より3月下旬から人気の高い「鈴木敏夫とジブリ展」を開催したことによって、観覧者数を押し上げている。またジブリ展にかかる費用が加わったために、総経費も上がっている。企画展の内容は毎年変わるために、個々の展覧会にかかる経費や観覧者数には変動があるが、概して目標人数は達成している。
今後の事業の方向性	美術館展覧会事業は、社会教育に寄与すると同時に、本市の重要な魅力発信、まちづくりや観光事業にも寄与するので、事業は継続する。同時により質や効果が高い内容を検討する。

令和６年度　事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	2	説明資料	41	項目番号	2(1)

事務事業名	商業振興対策事業	所管部課名	文化スポーツ観光部 商業振興課

（１）事務事業の概要

実施分類	補助金等	財源構成	市単	受益者負担	あり	事業終了の見込	未定		
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務								
根拠法令									
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画			
	中柱	周遊と消費の促進							
	小柱								
目標	地域経済及び地域コミュニティの核となる商店街の組織力強化や振興を図ることで、市内経済の活性化及び市民生活の利便性向上につなげるため、商店街団体を対象にした諸施策を行う。また、魅力ある店舗や、意欲的な事業者を支援することで、市内消費の拡大及び商業の活性化を図る。								
目標達成に必要なこと	・商店街や関係団体と連携し経済活性化を図る。 ・観光、文化、スポーツなどによる集客を市内消費につなげる。								
具体的な事業内容	(1)商店街との連携、支援(横須賀市等が行うイベントとの連携や、商店街実施事業への補助金による支援など) (2)商工会議所等関係団体との連携 (3)中小事業者のEC導入及びSNS発信等の支援や、店舗出店促進の支援など								

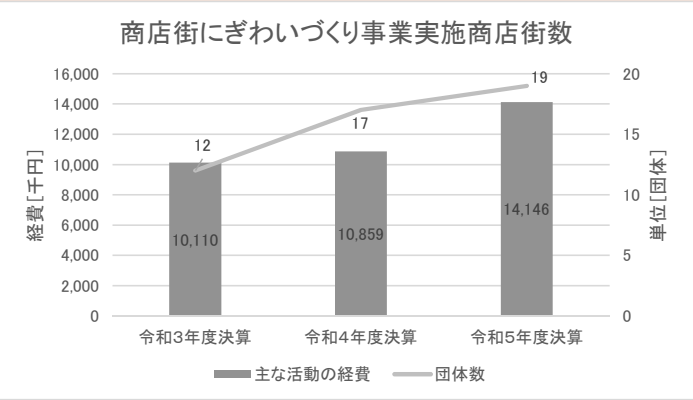
（２）本事務事業における主な活動の実績

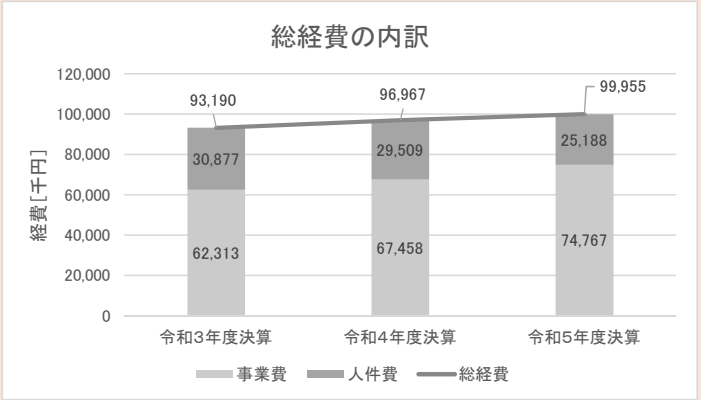
主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った**重要な項目１つ**)	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
① 商店街にぎわいづくり事業実施商店街数	団体数	12	17	19	団体
その他の活動実績	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
② 商店街プレミアム商品券事業補助金	件数		10	10	件
③ 空き店舗出店促進事業補助金	件数	4	5	6	件

（３）１年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区　分	令和３年度決算	令和４年度決算	令和５年度決算	令和５年度予算	単位
a　事業費（予算現額・支出済額）	62,313	67,458	74,767	95,964	千円
主な活動の経費（※上記(２)①）	10,110	10,859	14,146	23,461	千円
その他の活動経費（※上記(２)①以外の経費）	52,203	56,599	60,621	72,503	千円
b　人件費	30,877	29,509	25,188	33,796	千円
正規職員	3.7	3.5	3.0	4.0	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	0	0	0	0	千円
総経費（a　＋　b）	93,190	96,967	99,955	129,760	千円

（４）年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(２)①）】と【総経費の内訳】）





主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R3年度⇒R4年度	近年申請がなかった商店街地域連携共同事業を廃止し、商店街が空き店舗を借り上げ、町の賑わいを生み出すためのスペースづくり、仕掛けづくりを行うことに対して支援する「商店街空き店舗活用事業」を新設した。	主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R4年度⇒R5年度	空き店舗対策として、空き店舗出店促進事業補助金の件数を増加し、出店を促した。
年度ごとの推移の分析（【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等）	令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、商店街にぎわいづくり事業の実施件数が減少したが、ワクチン接種推進キャンペーン補助事業を臨時で行った。 令和4年度は、商店街にぎわいづくり事業の実施支援と併せて、物価高騰対策として、商店街街路灯等電気料金等補助金の補助率のかさ上げ、商店街プレミアム商品券事業補助金を臨時で行ったため、経費が増加した。 令和5年度も、商店街にぎわいづくり事業の実施支援に加え、物価高騰対策として、昨年度同様に商店街街路灯等電気料金等補助金の補助率のかさ上げと、昨年度好評だった商店街プレミアム商品券事業補助金の補助上限を引き上げ、事業実施を支援した。商店街プレミアム商品券は昨年よりも規模を拡大した商店街があったため、経費が増加した。		
今後の事業の方向性	イベントへの補助金や、電気代補助、施設改修補助は商店街団体の運営にも関わる補助のため存続していく。新たな取り組みについては、商店街や事業主の活動意欲が湧くように、毎年検討を行っていく。		

令和６年度　事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	2	説明資料	43	項目番号	3(1)

事務事業名	まちなか活性化事業	所管部課名	文化スポーツ観光部 商業振興課

（１）事務事業の概要

実施分類	補助金等	財源構成	市単	受益者負担	あり	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							

実施計画		分野別計画
大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興	
中柱	ルートミュージアムのさらなる強化	
小柱	⑤個性ある商店街への支援	

目標	プロスポーツチームのホームタウンやルートミュージアムサテライト、歴史や文化等を活用し、商店街が行う各地域の特色を生かした、観光、集客等につながる活性化策を支援し、まちなかのにぎわいの創出を図る。また、再開発や企業進出等の活性化の芽を商業振興につなげる。
目標達成に必要なこと	・地域の特色を商店街と共有し、それを活かしたにぎわいの創造。 ・拠点市街地での商業施設・ホテルなどの設置に対する支援制度の継続。
具体的な事業内容	(1)商店街との連携、支援(横須賀市等が行うイベントとの連携や、商店街実施事業への補助金による支援など) (2)民間の力で行われるまちのにぎわいづくり事業との連携、支援を行う。また、他都市等の市街地活性化施策を研究し、まちなかの活性化を図る。 (3)拠点市街地でのホテル・商業施設の設置を促進するための支援制度の周知を行う。

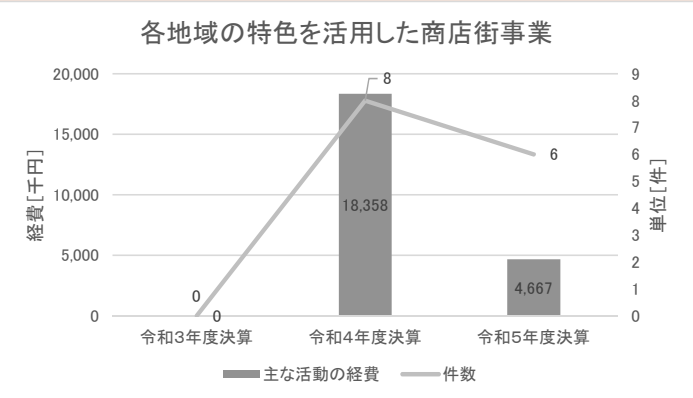
（２）本事務事業における主な活動の実績

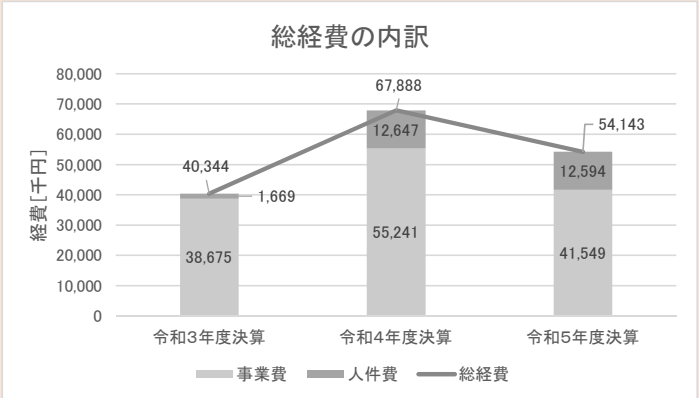
主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った**重要な項目１つ**)	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
① 各地域の特色を活用した商店街事業	件数		8	6	件
その他の活動実績	**活動（指標）名**	**令和３年度**	**令和４年度**	**令和５年度**	**単位**
② 旧三笠駐車場用地ホテル施設誘致にかかる奨励金	件数	1	1	1	件
③					

（３）１年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区　分	令和３年度決算	令和４年度決算	令和５年度決算	令和５年度予算	単位
a　事業費（予算現額・支出済額）	38,675	55,241	41,549	49,255	千円
主な活動の経費（※上記(２)①）		18,358	4,667	12,000	千円
その他の活動経費（※上記(２)①以外の経費）	38,675	36,883	36,882	37,255	千円
b　人件費	1,669	12,647	12,594	16,898	千円
正規職員	0.2	1.5	1.5	2.0	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	0	0	0	0	千円
総経費（a　＋　b）	40,344	67,888	54,143	66,153	千円

（４）年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(２)①）】と【総経費の内訳】）





主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R3年度⇒R4年度	市内各所の市街地のにぎわいをより促進していくため、令和4年度より事業名を「中心市街地活性化事業」から「まちなか活性化事業」に変更。 各地域の特色を生かした取り組みに対しての支援を行った。	主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R4年度⇒R5年度	コロナの反転攻勢とまちの賑わいを復活させるため、また、各地域へ継続した取り組みを促すため、補助を1/2→2/3に拡充し、支援を行った。

年度ごとの推移の分析（【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等）	令和3年度は、12月に開業した特別減税及び各種奨励金の対象であるホテルへの支出が主であった（奨励金は、令和3年度から令和7年度の予定）。 令和4年度は、事業名を「中心市街地活性化事業」から「まちなか活性化事業」に変更し、中心市街地だけでなく、市内各所の市街地のにぎわいをより促進するため、横浜F・マリノス練習場のオープンや大河ドラマなどを契機とした、各地域のスポーツや歴史等を活用した事業への商店街補助も拡充・新設しイベント実施や施設整備の支援を行ったため、増額している。 令和5年度は、各地域で継続してイベント事業等の支援を行ったが、施設整備がなかったため、件数と決算額が減少している。

今後の事業の方向性	市内各所の市街地のにぎわいの促進を継続していく。新たな取り組みについては、商店街や事業主の活動意欲が湧くように、毎年検討を行っていく。

令和６年度　事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	5	説明資料	46	項目番号	2(1)

事務事業名	観光振興総務費	所管部課名	文化スポーツ観光部 観光課

（１）事務事業の概要

実施分類	部分委託	財源構成	国・県	受益者負担		事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							

実施計画		分野別計画
大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興	
中柱	周遊と消費の促進	
小柱		

目標	観光産業を主要産業へ成長させることにより、地域経済の活性化や雇用の増加を図り、市民や市内企業の収入を増やすとともに、市外からの投資も誘引させる。
目標達成に必要なこと	・本市の自然や日本遺産などの歴史と、音楽・スポーツ・エンターテイメントを融合させ、相乗効果により発信力を高め、他地域と差別化を図る。 ・それにより、これまで横須賀に目を向けることが少なかった客層を誘客し、都市として「楽しそう」「面白そう」「わくわくするイメージ」を発信する。
具体的な事業内容	・観光施策の実効性の確保のため、観光振興推進委員会を開催する。 ・新たなお土産の開発・支援（おみやげコンテストの入賞作品のPRなど） ・観光客調査を通じて、観光客数や観光動態の状況確認を行い、今後に向けた観光施策の基礎資料とする。 ・海洋都市を目指し、マリンレジャー関連事業を実施し、普及促進を行う

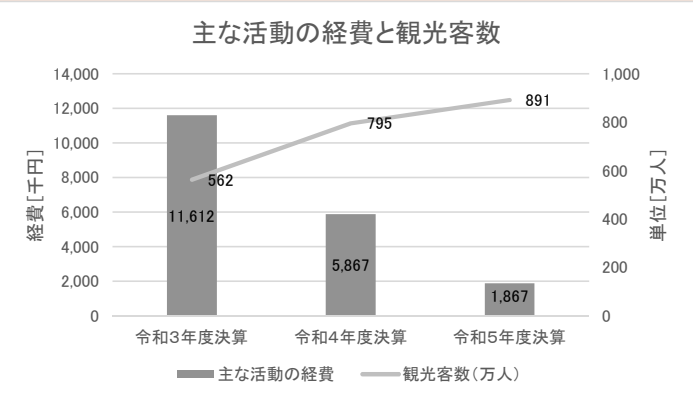
（２）本事務事業における主な活動の実績

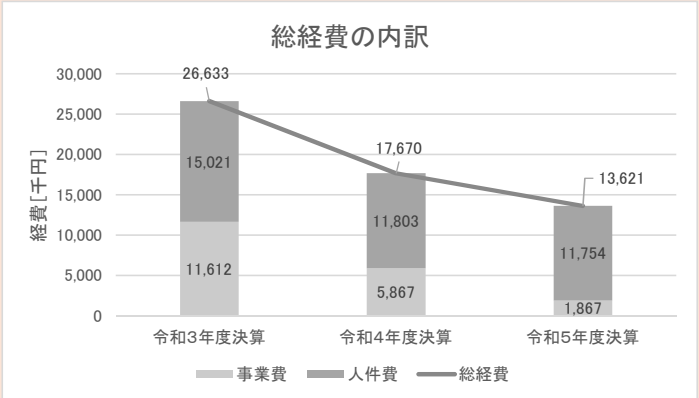
主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った**重要な項目１つ**)	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
① 観光客数	観光客数（万人）	562	795	891	万人
その他の活動実績	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
② 観光消費額	消費額（億円）	225	379	438	億円
③					

（３）１年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区　分	令和３年度決算	令和４年度決算	令和５年度決算	令和５年度予算	単位
a　事業費（予算現額・支出済額）	11,612	5,867	1,867	2,639	千円
主な活動の経費（※上記(２)①）	11,612	5,867	1,867	2,639	千円
その他の活動経費（※上記(２)①以外の経費）					千円
b　人件費	15,021	11,803	11,754	11,829	千円
正規職員	1.8	1.4	1.4	1.4	人
再任用職員（短時間を含む）					人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）					千円
総経費（a　＋　b）	26,633	17,670	13,621	14,468	千円

（４）年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(２)①）】と【総経費の内訳】）





主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R3年度⇒R4年度	令和3年度は、観光マーケティング調査委託や汐留バス停の副名称設定に伴う変更委託が実施されたが、これらの委託は単年度実施の事業であるため、令和4年度では行われていない。	主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R4年度⇒R5年度	令和3年度及び4年度の2ヵ年実施した「おみやげアイデアコンテスト」について、令和5年度はこれまでの入賞作品のPR等の支援に移行したことにより支出が減となった（▲）

年度ごとの推移の分析（【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等）	・令和4年度は、前年度に引き続き「おみやげアイデアコンテスト」を実施し、7件が受賞。3年度4年度の受賞作品のうち販売を開始した商品を集めて市内観光施設等で販売会を2回行った。また、例年実施している観光施策の基礎データとなる「観光客入込調査」を年4回行った（375千円）。総経費減額の主な理由は、令和3年度に実施した観光マーケティング調査等の委託経費の減額（▲5,774,560円） ・令和5年度は、「おみやげアイデアコンテスト」は実施せず、これまでの入賞作品のPR等の支援に移行したことにより支出が大幅に減となった（▲4,150）。例年実施している観光施策の基礎データとなる「観光客入込調査」を年4回実施した（385千円）ほか、新たに観光客の消費額を正確に把握するため「観光客消費額アンケート調査」を年4回実施した（32千円） 様々な活動や取組の実績により、コロナで落ち込んでいた観光客数も年々増加傾向にあり、令和5年度にはコロナ前の実績を上回る結果となった。
今後の事業の方向性	今後も、観光産業を主要産業へ成長させることにより地域経済の活性化を図り、そのために必要な事業を継続して実施するとともに、国や県などの補助金の活用や、民間事業者の人材、ノウハウ、資金などを活用し、コラボレーションをすることで、より魅力的で話題性のある事業を展開していく。

令和６年度　事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	5	説明資料	47	項目番号	3(1)

事務事業名	集客プロモーション事業	所管部課名	文化スポーツ観光部 観光課

（１）事務事業の概要

実施分類	その他	財源構成	国・県	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							

実施計画			分野別計画
	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興	観光立市推進基本計画
	中柱	周遊と消費の促進	観光立市推進アクションプラン
	小柱		

目標	近隣の市町と比べて、交通の便を含め住環境が良いにもかかわらず人口減少が進んでいる状況である。その原因の一つとして、実際の環境と市の持たれているイメージとの乖離が大きいことが要因であると、これまでの様々なアンケート結果にも出ているところである。こうしたイメージを払拭し、横須賀に良いイメージを持ってもらうことで現状を打破していく。
目標達成に必要なこと	待ちの姿勢では、民間企業が本市に興味を持ったり、投資や事業を行いたいと思ってくれることはないため、行政自身が常に新しい試みにチャレンジして起点を作り、その展開を発信し続けなければならない。様々な分野で最先端の技術を取り入れたチャレンジを続け、発信することで本市の「ワクワクできる街、楽しそうな街、チャレンジできる街、チャレンジしている街」としてのイメージを定着させていく。
具体的な事業内容	（1）ルートミュージアムの推進による市内周遊の促進（周遊満足度の向上、ICTの活用、移動手段の充実など） （2）サブカルチャーを活用した新しい層の取り込み （3）スポーツを活用した集客 （4）情報発信（SNSや観光情報サイト）

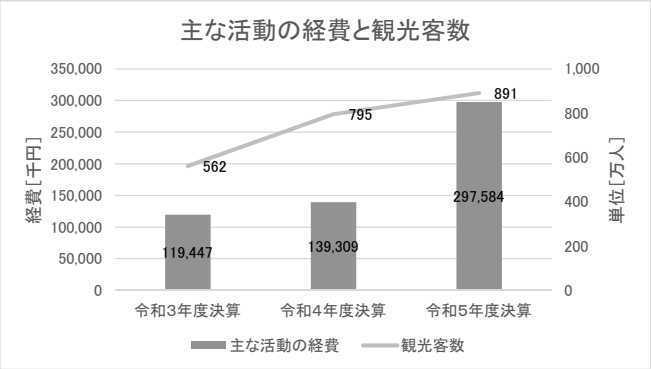
（２）本事務事業における主な活動の実績

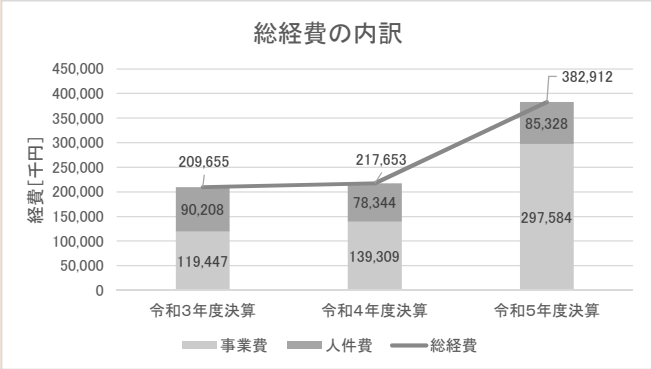
主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った**重要な項目１つ**)	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
① 観光客数	観光客数	562	795	891	万人
その他の活動実績	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
② 観光客消費額	観光消費額	225	379	438	億円
③					

（３）１年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区　分	令和３年度決算	令和４年度決算	令和５年度決算	令和５年度予算	単位
a　事業費（予算現額・支出済額）	119,447	139,309	297,584	331,531	千円
主な活動の経費（※上記(２)①）	119,447	139,309	297,584	331,531	千円
その他の活動経費（※上記(２)①以外の経費）	0	0	0	0	千円
b　人件費	90,208	78,344	85,328	77,439	千円
正規職員	9.5	8.0	9.0	8.0	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	10,930	10,896	9,764	9,847	千円
総経費（a　＋　b）	209,655	217,653	382,912	408,970	千円

（４）年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(２)①）】と【総経費の内訳】）





主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R3年度⇒R4年度	・よこすか海のアニメカーニバルは実施しなかったが、新たなサブカルチャーとのコラボとして、「モンスターハンター：サンブレイク」とのコラボイベントを開催した。 ・e-sportsの普及促進として、「YOKOSUKA e-Sports Town Club CUP」を開催した。 ・子供向けの夏休みイベントとして、謎解きイベントを開催した。 ・海上自衛隊創設70周年記念国際観艦式における音楽イベントを実施した。	主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R4年度⇒R5年度	（拡充） 令和3年より実施しているMEGURU PROJECTでは、ドローンショー、幕末ショーを行う等規模を拡大して実施。 （新規） ・夜間のにぎわいやアーバンスポーツによるにぎわいを創出する民間事業者の取り組みに補助金を交付。 ・市内に点在する観光地の移動を簡易にし周遊を促進する二次交通等の取り組みに対して奨励金を交付。 ・メタバース空間に横須賀市の2つのワールドを制作、展開し、新しい層に対して魅力を発信し、集客につながる取組みを実施。

年度ごとの推移の分析（【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等）	【主な活動実績】令和3年度はコロナ禍でありながらも、ティボディエ邸を中心としたルートミュージアムの周遊促進事業や、浦賀地域への周遊を促進するMEGURU PROJECTを実施した。令和4年度もMEGURU PROJECTを継続して実施し、さらに「モンスターハンター：サンブレイク」とのコラボイベントも開催。令和5年度はコロナの5類引き下げを契機に、MEGURU PROJECTを拡大し、より大規模なイベントとして実施。さらに新たなにぎわいイベントの創出に対する補助や周遊を促進する二次交通への奨励金の交付も行った。また、都市魅力を発信するためにメタバース空間の活用も開始したこと等により令和5年度はコロナ前である令和元年度の水準（875万人）を超えることとなった。【総経費の内訳】MEGURU PROJECTの拡大実施をはじめ、各イベントを再開したこと、また国費補助金を活用した二次交通や新たなにぎわいの創出に対する補助などの積極的な取り組みにより、事業費は増加している。

今後の事業の方向性	引き続き新たな観光の核となる拠点の創出、地域資源を線でつなぎ面で展開するしくみづくり、地域資源と音楽・スポーツ・エンターテイメントとの融合、消費につながる魅力的なモノ・コトの創出、民間事業者等とのコラボレーションによる新たな魅力発信、地域の特性やインパクトのあるイベントを活用した効果的なプロモーションの実施を行うことで、ルートミュージアムを核とした観光立市を実現する。

令和６年度　事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	5	説明資料	50	項目番号	3(2)

事務事業名	セールスプロモーション事業	所管部課名	文化スポーツ観光部 観光課

（１）事務事業の概要

実施分類	その他	財源構成	市単	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							

実施計画			分野別計画
	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興	観光立市推進基本計画
	中柱	周遊と消費の促進	観光立市推進アクションプラン
	小柱		

目標	近隣の市町と比べて、交通の便を含め住環境が良いにもかかわらず人口減少が進んでいる状況である。その原因の一つとして、実際の環境と市の持たれているイメージとの乖離が大きいことが要因であると、これまでの様々なアンケート結果にも出ているところである。こうしたイメージを払拭し、横須賀に良いイメージを持ってもらうことで現状を打破していく。
目標達成に必要なこと	待ちの姿勢では、民間企業が本市に興味を持ったり、投資や事業を行いたいと思ってくれることはないため、行政自身が常に新しい試みにチャレンジして起点を作り、その展開を発信し続けなければならない。様々な分野で最先端の技術を取り入れたチャレンジを続け、発信することで本市の「ワクワクできる街、楽しそうな街、チャレンジできる街、チャレンジしている街」としてのイメージを定着させていく。
具体的な事業内容	(1)ツアーセールス：団体客誘致（バスツアー等）のためのセールス活動 (2)メディアセールス：テレビ、新聞、雑誌、WEB等のメディアでの露出を図るためのセールス活動

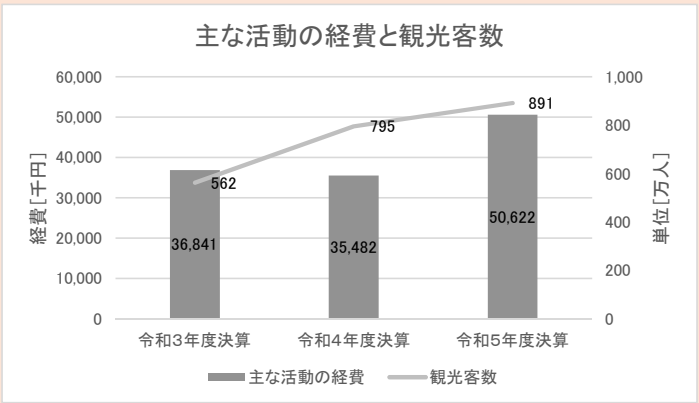
（２）本事務事業における主な活動の実績

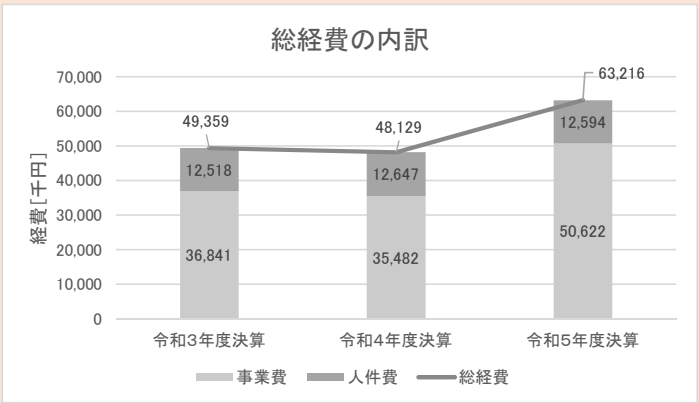
主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った**重要な項目１つ**)	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
① 観光客数	観光客数	562	795	891	万人
その他の活動実績	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
② 観光客消費額	観光客消費額	225	379	438	億円
③					

（３）１年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区　分	令和３年度決算	令和４年度決算	令和５年度決算	令和５年度予算	単位
a　事業費（予算現額・支出済額）	36,841	35,482	50,622	55,625	千円
主な活動の経費（※上記(２)①）	36,841	35,482	50,622	55,625	千円
その他の活動経費（※上記(２)①以外の経費）	0	0	0	0	千円
b　人件費	12,518	12,647	12,594	12,674	千円
正規職員	1.5	1.5	1.5	1.5	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	0	0	0	0	千円
総経費（a　＋　b）	49,359	48,129	63,216	68,299	千円

（４）年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(２)①）】と【総経費の内訳】）





主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R3年度⇒R4年度	特になし	主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R4年度⇒R5年度	令和4年度までは主に横須賀集客促進・魅力発信実行委員会にてセールスプロモーション事業を実施していたが、令和5年度はツアーセールスやメディアセールス業務の一部を観光協会に委託して実施した。

年度ごとの推移の分析（【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等）	【主な活動実績】ツアーセールス事業は、バスツアー助成事業の３年度実績が188件（6,480千円）であったのに対し、４年度実績は517件（18,746千円）と約3倍増となり、令和5年度も641件（23,960千円）と着実にコロナ禍から回復してきた。観光客数および観光客消費額については、令和2年度はコロナウイルスの影響で大幅に減少したが、令和3年度から令和4年度にかけて大型イベントやバスツアーの再開などにより大幅に増加し、令和5年度はコロナ前である令和元年度の水準（875万人）を超えることとなった。 【総経費の内訳】令和3年度から令和4年度はバスツアーの件数が大幅に増加し、さらに令和5年度も継続して増加した。令和4年度のバスツアー助成は大幅増となったものの、令和3年度に実施した観光プロモーションのための動画制作等を令和4年度は実施しなかったため、総経費は若干の減となった。さらに令和5年度は、前述のバスツアー助成にかかる事業費増加に加え、メディアセールスについてロケーション誘致の新たな方向性と今後の事業展開を検討するための調査・分析を実施したことなどから総経費が増加している。

今後の事業の方向性	引き続き新たな観光の核となる拠点の創出、地域資源を線でつなぎ面で展開するしくみづくり、地域資源と音楽・スポーツ・エンターテイメントとの融合、消費につながる魅力的なモノ・コトの創出、民間事業者等とのコラボレーションによる新たな魅力発信、地域の特性やインパクトのあるイベントを活用した効果的なプロモーションの実施を行うことで、ルートミュージアムを核とした観光立市を実現する。

令和６年度　事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	5	説明資料	55	項目番号	7(1)

事務事業名	大規模スポーツ大会等誘致事業 （ウインドサーフィンワールドカップの誘致等）	所管部課名	文化スポーツ観光部 企画課

（１）事務事業の概要

実施分類	その他	財源構成	その他	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							

実施計画			分野別計画	
	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興		
	中柱	スポーツによるにぎわいの創出		
	小柱	②マリンスポーツ、マリンレジャーによるにぎわいづくり		

目標	ウインドサーフィンワールドカップの開催を契機に、まちに賑わいを創出し、「ウインドサーフィンのまち」としての地域ブランド力の向上を図り、地域の活性化を目指す。
目標達成に必要なこと	・ワールドカップを継続的に開催するために、民間企業など外部団体からの支援、協力をしていただけるような大会づくりを行う ・目指すまちづくり、賑わいの創出に地域住民が率先して参加できるような環境づくりを行う
具体的な事業内容	・津久井浜海岸でのウインドサーフィンワールドカップの継続開催 ・フリースタイルの全国大会誘致 ・iQフォイル強化練習会の誘致 ・ジュニアトップアスリート発掘・育成のためのウインドサーフィンアカデミーの実施 ・ワークプレイスとマリンスポーツが体験できるワーケーション環境の整備

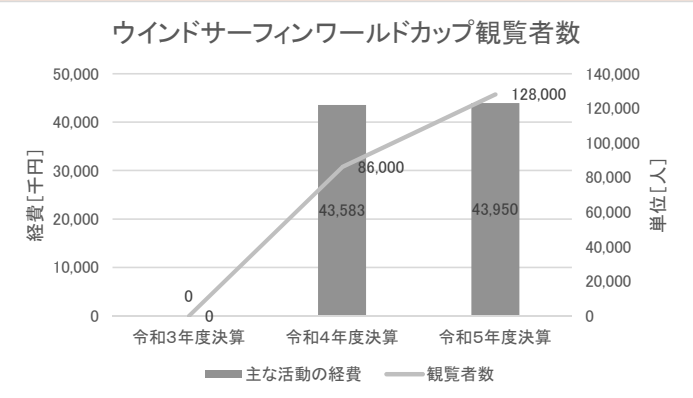
（２）本事務事業における主な活動の実績

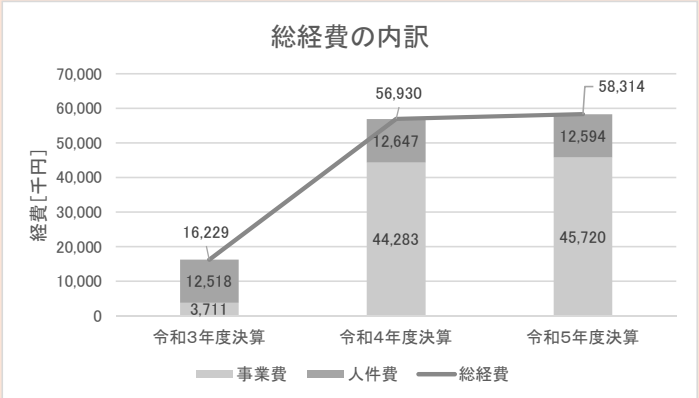
主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った**重要な項目１つ**)	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
① ウインドサーフィンワールドカップの実施	観覧者数	－	86,000	128,000	人
その他の活動実績	**活動（指標）名**	**令和３年度**	**令和４年度**	**令和５年度**	**単位**
② 全国大会や練習会の誘致	誘致件数	3	3	3	回
③ ウインドサーフィンアカデミーの実施	受講者数	12	4	6	人

（３）１年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区　分	令和３年度決算	令和４年度決算	令和５年度決算	令和５年度予算	単位
a　事業費（予算現額・支出済額）	3,711	44,283	45,720	46,323	千円
主な活動の経費（※上記(２)①）	0	43,583	43,950	44,010	千円
その他の活動経費（※上記(２)①以外の経費）	3,711	700	1,770	2,313	千円
b　人件費	12,518	12,647	12,594	12,674	千円
正規職員	1.5	1.5	1.5	1.5	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	0	0	0	0	千円
総経費（a　＋　b）	16,229	56,930	58,314	58,997	千円

（４）年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(２)①）】と【総経費の内訳】）





主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R3年度⇒R4年度	3年ぶりに開催したワールドカップにおいて、新型コロナウィルス感染症に対応したレースのライブ動画などのオンライン配信を行った結果、来場者数31,000人、動画観覧数55,000人の計86,000人が観覧し、全世界に大会及び津久井浜海岸の魅力をPRすることができた。	主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R4年度⇒R5年度	ワールドカップに関して、多種多様なキッチンカーや地元特産品の販売ブースの設置、SDGsの一環として、リサイクルTシャツの制作など、競技以外にも楽しめるコンテンツを充実させることで、大会の魅力を高めた。

年度ごとの推移の分析（【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等）	・令和3年度は新型コロナウイルス感染症により、ワールドカップが中止となったが、大会ブランディングの実施、ウインドサーフィンフェスティバルの開催を行い、継続開催に向けた準備や機運醸成に努めた。 ・令和4年度は、オンライン配信の環境を整備してワールドカップを開催することで、従前よりも多くの人にウインドサーフィンと横須賀の魅力をPRすることができた。 ・令和5年度もオンライン配信を継続するとともに、youtube等のSNSを中心としたデジタルプロモーションを強化することで、大会観覧者数を大きく伸ばした。（来場者数32,000人、動画観覧数96,000人）

今後の事業の方向性	W杯を継続的に開催するとともに、ナショナルチーム強化練習会の誘致、ジュニアトップアスリートの発掘・育成、全国規模の大会誘致などを行うことで、まちにさらなる賑わいを創出し、「ウインドサーフィンのまち」としてのイメージの定着、地域ブランド力の向上を図り、交流人口の増加、民間企業による投資促進などを目指す。

令和６年度　事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	5	説明資料	56	項目番号	7(1)

事務事業名	大規模スポーツ大会等誘致事業 （BMXフリースタイルジャパンカップの誘致等）	所管部課名	文化スポーツ観光部 企画課

（１）事務事業の概要

実施分類	補助金等	財源構成	国・県	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							

実施計画		分野別計画
大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興	観光立市推進基本計画
中柱	スポーツによるにぎわいの創出	横須賀市スポーツ推進計画
小柱	③アーバンスポーツ、eスポーツによるにぎわいづくり	

目標	BMXフリースタイルジャパンカップの誘致・開催を契機に、アーバンスポーツの普及・振興および地域活性化を図る。 また、アーバンスポーツを文化として根付かせ、アーバンスポーツの聖地として若者が集うまちとなり、本市の新たな魅力を創出・発信していく。
目標達成に必要なこと	・（一社）全日本フリースタイルBMX連盟や関連団体・企業との連携 ・地元住民や子供を中心とした普及活動を実施し、「アーバンスポーツのまち横須賀」の認知度向上 ・BMXフリースタイルジャパンカップの継続開催
具体的な事業内容	・BMXフリースタイルジャパンカップの誘致・開催 ・BMXを中心としたアーバンスポーツ普及事業の実施（学校訪問、体験会、デモンストレーション等） ・「アーバンスポーツのまち横須賀」を推進する取り組み（プロモーション等）

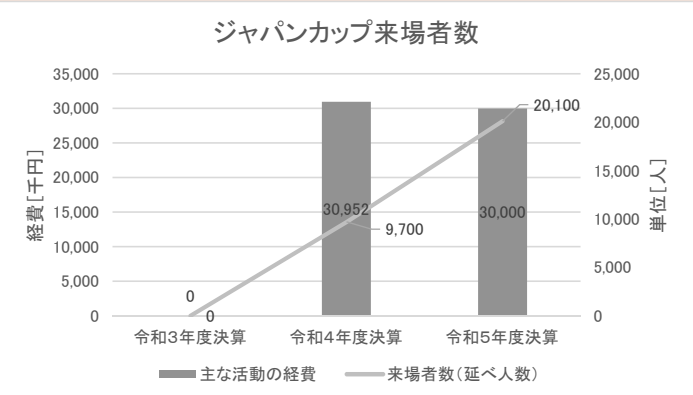
（２）本事務事業における主な活動の実績

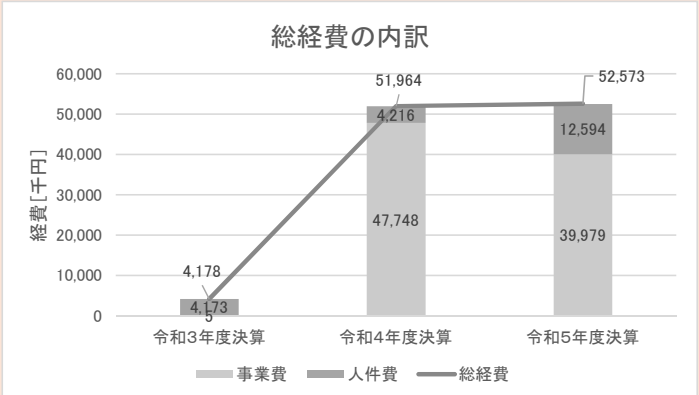
主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った**重要な項目１つ**)	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
① BMXフリースタイルジャパンカップの開催	来場者数（延べ人数）		9,700	20,100	人
その他の活動実績	**活動（指標）名**	**令和３年度**	**令和４年度**	**令和５年度**	**単位**
② BMXを中心としたアーバンスポーツ普及事業の実施	参加者数		3,392	2,624	人
③ うみかぜ公園BMXパークのオープン	利用者数		576	1,507	人

（３）１年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区　分	令和３年度決算	令和４年度決算	令和５年度決算	令和５年度予算	単位
a　事業費（予算現額・支出済額）	5	47,748	39,979	47,324	千円
主な活動の経費（※上記(２)①）	0	30,952	30,000	31,110	千円
その他の活動経費（※上記(２)①以外の経費）	5	16,796	9,979	16,214	千円
b　人件費	4,173	4,216	12,594	16,898	千円
正規職員	0.5	0.5	1.5	2.0	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	0	0	0	0	千円
総経費（a　＋　b）	4,178	51,964	52,573	64,222	千円

（４）年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(２)①）】と【総経費の内訳】）





主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R3年度⇒R4年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度は延期となっていたが、令和4年度に初開催した。	主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R4年度⇒R5年度	令和4年度に引き続き実施した。 国際大会となり大会の規模が拡大した。

年度ごとの推移の分析（【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等）	令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により未実施であったが、令和4年度はBMXフリースタイルジャパンカップを開催することができたため、開催にかかる経費が増加した。令和5年度には、さらに国際大会として開催されたことや、東京オリンピックに出場した日本人選手の本大会出場などの注目度、および2年連続での開催による地元の関心等の向上により、前年度（9,700人）および目標値（10,000人）を大きく上回る来場者数となった。
今後の事業の方向性	引き続きジャパンカップを誘致・開催するとともに、BMXを中心としたアーバンスポーツの普及事業を継続的に実施することで、アーバンスポーツを通した地域活性化を図り、交流人口の増加や本市の魅力発信につなげ、「アーバンスポーツの聖地」を目指す。

令和６年度　事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	5	説明資料	56	項目番号	7(2)

事務事業名	国際会議等誘致事業	所管部課名	文化スポーツ観光部 企画課

（１）事務事業の概要

実施分類	補助金等	財源構成	市単	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							

実施計画			分野別計画
	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興	観光立市推進基本計画
	中柱	周遊と消費の促進	
	小柱	②宿泊者等の増加	

目標	学会・スポーツ大会・スポーツ合宿を誘致し、来訪者の宿泊、飲食、観光等による経済効果の増加や、市のブランドイメージの向上と発信を図る。
目標達成に必要なこと	学会の開催やスポーツ合宿について働きかけを行うとともに、運営面等を積極的に支援する。
具体的な事業内容	(1)一般社団法人横須賀市観光協会への補助金交付、連携および支援 (2)会場の優先予約

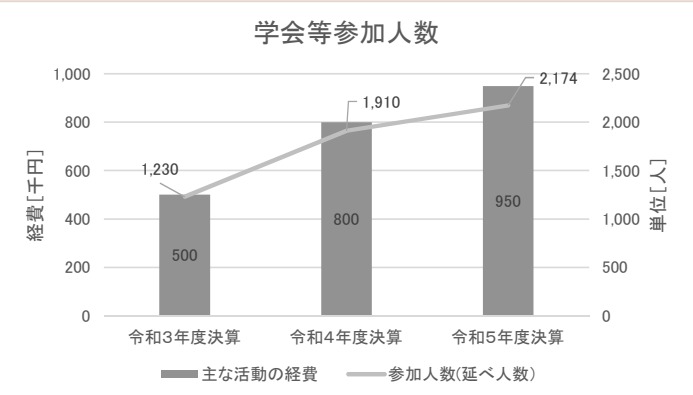
（２）本事務事業における主な活動の実績

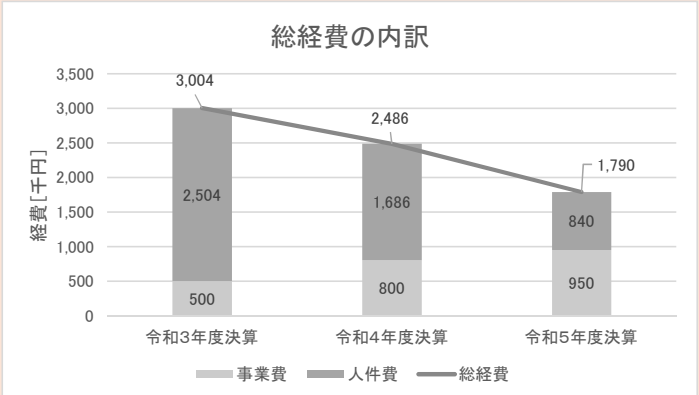
主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った**重要な項目１つ**)	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
① 学会・スポーツ合宿等の開催支援数	参加人数(延べ人数)	1,230	1,910	2,174	人
その他の活動実績	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
② 学会・スポーツ合宿等の開催支援額	補助金交付額	500	800	950	千円
③					

（３）１年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区　分	令和３年度決算	令和４年度決算	令和５年度決算	令和５年度予算	単位
a　事業費（予算現額・支出済額）	500	800	950	2,818	千円
主な活動の経費（※上記(２)①）	500	800	950	2,800	千円
その他の活動経費（※上記(２)①以外の経費）				18	千円
b　人件費	2,504	1,686	840	845	千円
正規職員	0.3	0.2	0.1	0.1	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	0	0	0	0	千円
総経費（a　＋　b）	3,004	2,486	1,790	3,663	千円

（４）年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(２)①）】と【総経費の内訳】）





主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R3年度⇒R4年度	市内の宿泊施設や飲食店など、行政以上に事業者との綿密な連携が図れる強みをもつ一般社団法人横須賀市観光協会へ、団体からの事前相談などの支援業務を引き継いだ。	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R4年度⇒R5年度	団体等との事前相談から補助金の申請・交付まで窓口を一本化するため、補助金交付業務も一般社団法人横須賀市観光協会へ引き継いだ。それにより、これまでの要綱を廃止し、新たに要領を制定した。
年度ごとの推移の分析 （【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等）	令和3年度は、コロナの影響が続く中、学会については現地会場とオンライン形式併用の開催、スポーツ合宿も行われ、補助金交付件数が4件、参加人数は1,230人となった。 令和4年度は、コロナの影響をほとんど受けず、補助金交付額及び学会等参加人数が増加したが、団体への支援業務を一般社団法人横須賀市観光協会に移管したことに伴う人件費の削減により、総経費が削減となっている。 令和5年度は、コロナが5類感染症に移行したことにより参加人数の多い学会およびスポーツ大会の開催が増え参加人数が増加したが、補助金交付業務も一般社団法人横須賀市観光協会に移管したことに伴う人件費の削減により、総経費が削減となっている。		
今後の事業の方向性	来訪者の平均消費単価の増加、宿泊者数の増加に向けて、観光周遊および宿泊や食事の手配代行、補助金支出業務など観光協会による団体へのさらなる支援を働きかけていく。		

令和６年度　事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	5	説明資料	57	項目番号	8(1)

事務事業名	エンターテイメント誘致事業	所管部課名	文化スポーツ観光部 企画課

（１）事務事業の概要

実施分類	直営	財源構成	国・県	受益者負担	なし	事業終了の見込	令和5年
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							

実施計画			分野別計画	
	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興		
	中柱	ルートミュージアムのさらなる強化		
	小柱	②浦賀地区の活性化		

目標	注目される契機となるような話題性のあるイベントを実施。イベントをきっかけに民間資金によるイベントの開催や施設を誘致し、地域資源の活用、地域活性化につなげる。
目標達成に必要なこと	特に注目度を高めたい地域において、地域資源を活用した話題性のあるイベントを実施し、地域の魅力をPRする。 誘致にあたっては、企業版ふるさと納税を財源とした奨励金を交付するなど、民間企業が参入しやすいよう、支援していく。
具体的な事業内容	・民間事業者のノウハウ等を活用したイベントの誘致及び支援。イベント開催に際しての企業版ふるさと納税を活用した奨励金の交付

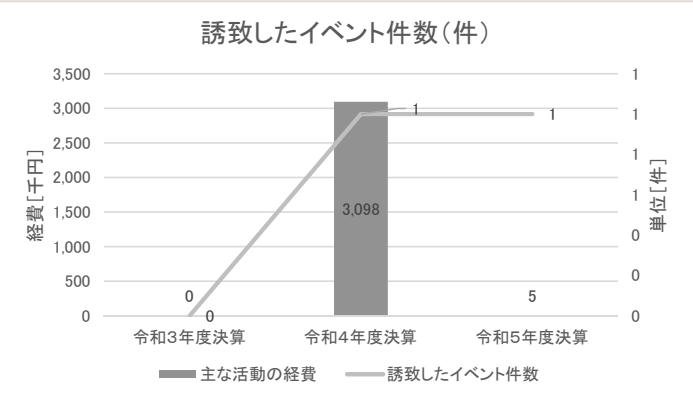
（２）本事務事業における主な活動の実績

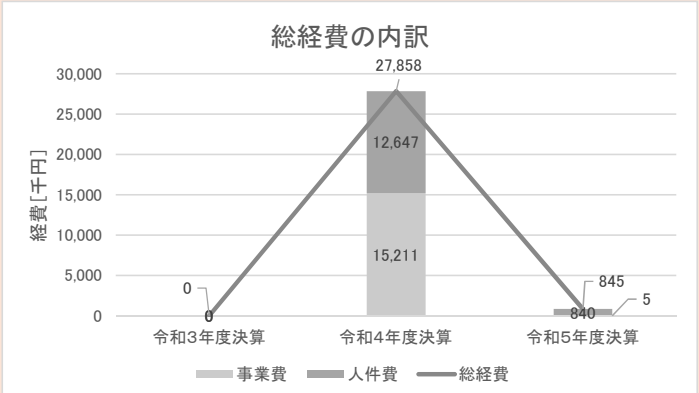
主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った**重要な項目１つ**)	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
① 民間事業者のノウハウ等を活用したイベントの誘致	誘致したイベント件数	0	1	1	件
その他の活動実績	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
②					
③					

（３）１年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区　分	令和３年度決算	令和４年度決算	令和５年度決算	令和５年度予算	単位
a　事業費（予算現額・支出済額）	0	15,211	5	109	千円
主な活動の経費（※上記(２)①）		3,098	5	109	千円
その他の活動経費（※上記(２)①以外の経費）		12,113	0	0	千円
b　人件費	0	12,647	840	845	千円
正規職員		1.5	0.1	0.1	人
再任用職員（短時間を含む）		0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）		0	0	0	千円
総経費（a　＋　b）	0	27,858	845	954	千円

（４）年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(２)①）】と【総経費の内訳】）





主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R3年度⇒R4年度	NHK大河ドラマ放映を契機とした、三浦一族にまつわる文化財や歴史などの魅力を発信した。 また浦賀奉行所開設300周年記念事業とは別のアプローチで浦賀ドックを活用したイベントを実施した。	主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R4年度⇒R5年度	三浦一族にまつわる文化財や歴史などの魅力の発信や浦賀ドックの活用など、市が主体となって魅力を創出する事業については都市魅力PR事業に移管し、民間事業者のノウハウ等を活用したイベントの誘致および支援に注力した。

年度ごとの推移の分析（【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等）	令和4年度は、NHK大河ドラマを契機とした取り組みや浦賀ドック内における音楽ライブなど、今までに無い新たな取り組みをすることで、横須賀の地域資源の新たな可能性を発信することができた。また、企業版ふるさと納税を活用した奨励金を交付し、イベントを誘致（「PEACE DAY 2022」オープニングイベントなど）することで、地域資源の新たな可能性の発信に努めた。 令和5年度は、前年度に行ったNHK大河ドラマを契機とした取り組みや浦賀ドックを活用したイベントなどの地域資源を活用したPR事業を都市魅力PR事業に移管したため、事業費（約15,200千円）は減となった。また、昨年度に引き続き「民間事業者のノウハウ等を活用したイベントの誘致及び支援」（横須賀オクトーバーフェストなど）を行い、市が経費をかけず、効果的に地域活性化や地域資源の新たな可能性を発信することができた。

今後の事業の方向性	今後も注目される契機となるような話題性のあるイベントなどを誘致し、地域資源の活用、地域活性化につなげる。 また、誘致にあたっては、企業版ふるさと納税を財源とした奨励金を交付するなど、民間企業が参入しやすいよう、支援していく。 （事業は令和5年度末で廃止となり、都市魅力PR事業に引き継ぐ）

令和６年度　事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	11	項	9	目	2	説明資料	64	項目番号	3(6)

事務事業名	少年期スポーツ障害予防対策事業	所管部課名	文化スポーツ観光部 スポーツ振興課

（１）事務事業の概要

実施分類	その他	財源構成	その他	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令	スポーツ基本法第14条						

実施計画			分野別計画	
	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興		横須賀市スポーツ推進計画
	中柱	スポーツによるにぎわいの創出		
	小柱	①プロスポーツチームとの連携		

目標	少年期のスポーツ障害を予防するためには、「怪我をしない体づくり」、「怪我をさせない環境づくり」が重要であり、これらを少年スポーツの現場に浸透させる。
目標達成に必要なこと	本市の少年スポーツの現場における正しい知識の普及。
具体的な事業内容	子どもたちが将来にわたってスポーツを楽しめる環境づくりの一環として、少年期におけるスポーツ障害予防対策を実施する。スポーツ整形の医師や本市で活動するプロスポーツチームなどの協力を得て、野球とサッカーの2競技を対象に、検診や予防トレーニングの講習などを実施する。 実施内容 １　医師による超音波検査　２　予防トレーニング講習　３　指導者向けの講話

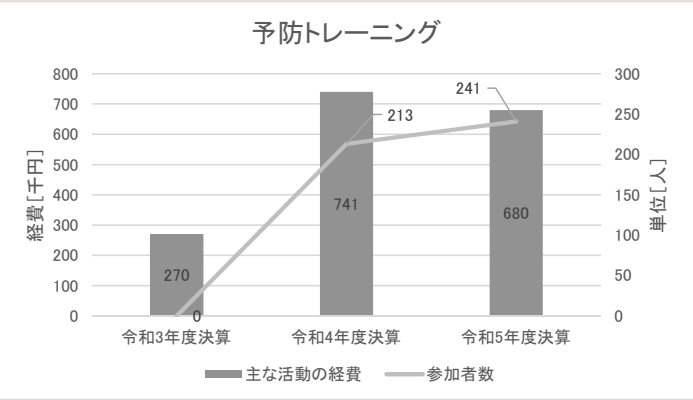
（２）本事務事業における主な活動の実績

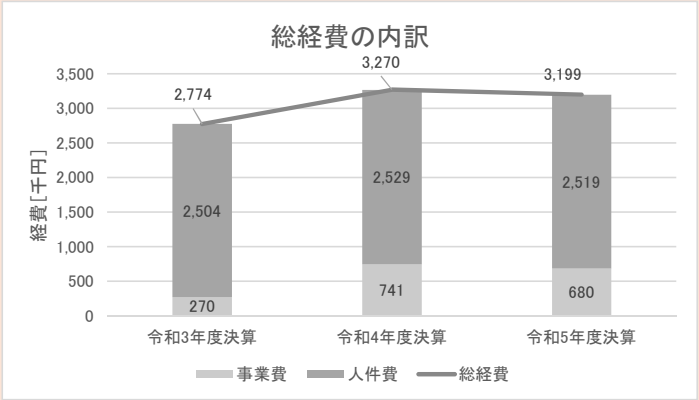
主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った**重要な項目１つ**)	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
① 予防トレーニング	参加者数	ー	213	241	人
その他の活動実績	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
②					
③					

（３）１年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区　分	令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	令和5年度予算	単位
a　事業費（予算現額・支出済額）	270	741	680	796	千円
主な活動の経費（※上記(２)①）	270	741	680	796	千円
その他の活動経費（※上記(２)①以外の経費）	0	0	0	0	千円
b　人件費	2,504	2,529	2,519	2,535	千円
正規職員	0.3	0.3	0.3	0.3	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	0	0	0	0	千円
総経費（a　＋　b）	2,774	3,270	3,199	3,331	千円

（４）年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(２)①）】と【総経費の内訳】）





主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R3年度⇒R4年度	令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、講習会およびトレーニング指導を動画配信という形となったが、4年度に初めて対面式で開催した。	主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R4年度⇒R5年度	令和5年度は野球、サッカーに加えソフトボールも対象種目として追加した。

年度ごとの推移の分析（【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等）	【主な活動実績】 参加チームが参加しやすい日程への変更やソフトボールも新たに対象としたことにより、参加者数が増となった。 【総経費の内訳】 対面式の開催も2回目となり、医師や理学療法士の配置が整理され、減額となった。
今後の事業の方向性	少年期にスポーツ障害に対する正しい知識を身につけてもらい、「怪我をしない体づくり」や、指導者も正しい知識を身につけることで、「怪我をさせない環境づくり」を横須賀市の少年スポーツの現場に浸透させるため継続して事業を行っていく。

令和６年度　事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	11	項	9	目	2	説明資料	65	項目番号	4(5)

事務事業名	社会体育団体等補助金（スポーツ選手育成強化事業補助金）	所管部課名	文化スポーツ観光部 スポーツ振興課

（１）事務事業の概要

実施分類	補助金等	財源構成	市単	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令	スポーツ基本法第34条						

実施計画			分野別計画
	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興	横須賀市スポーツ推進計画
	中柱	スポーツによるにぎわいの創出	
	小柱	①プロスポーツチームとの連携	

目標	各種目選手の競技力向上。
目標達成に必要なこと	選手強化事業に取り組むための支援をすること。
具体的な事業内容	・スポーツ協会では、選手等のための食生活やケガ予防等についての講習会・講演会の開催、傘下種目団体へ事業交付金・活動奨励費の交付のほか、選抜選手強化事業、特定競技強化事業を実施している。

（２）本事務事業における主な活動の実績

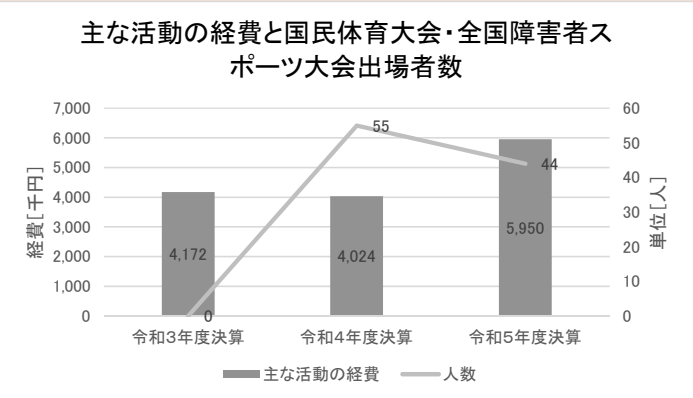
主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った**重要な項目１つ**)	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
① 国民体育大会・全国障害者スポーツ大会出場者	人数	0	55	44	人

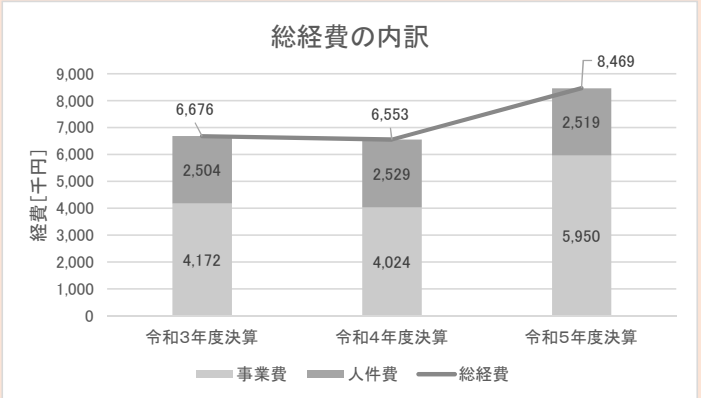
その他の活動実績	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
②					
③					

（３）１年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区　分	令和３年度決算	令和４年度決算	令和５年度決算	令和５年度予算	単位
a　事業費（予算現額・支出済額）	4,172	4,024	5,950	5,950	千円
主な活動の経費（※上記(２)①）	4,172	4,024	5,950	5,950	千円
その他の活動経費（※上記(２)①以外の経費）	0	0	0	0	千円
b　人件費	2,504	2,529	2,519	2,535	千円
正規職員	0.3	0.3	0.3	0.3	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	0	0	0	0	千円
総経費（a　＋　b）	6,676	6,553	8,469	8,485	千円

（４）年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(２)①）】と【総経費の内訳】）





主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R3年度⇒R4年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、横須賀市体育協会での選手育成強化事業を予定より縮小した。	主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R4年度⇒R5年度	新型コロナウイルス５類移行に伴い、選手育成強化事業活動が再開された。

年度ごとの推移の分析（【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等）	新型コロナウイルス感染症の影響により ・令和3年度は、横須賀市スポーツ協会が行う講習会等の選手育成事業が中止や縮小、国民体育大会および全国障害者スポーツ大会が中止となった。 ・令和4年度は、横須賀市スポーツ協会が行う講習会等の選手育成事業が中止や縮小となり、前年度同様の経費となった。 ・令和5年度は概ねコロナ前の規模で実施することができ、講習会等の開催、国民体育大会等の開催により激励費が増加し、総経費が増となった。
今後の事業の方向性	次期オリンピック・パラリンピックを見据え、引き続き継続していく。

令和６年度　事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	11	項	9	目	2	説明資料	66	項目番号	5(1)

事務事業名	ホームタウンチーム活動推進事業	所管部課名	文化スポーツ観光部 スポーツ振興課

（１）事務事業の概要

実施分類	直営	財源構成	市単	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定		
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務								
根拠法令									
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	横須賀市スポーツ推進計画		
	中柱	スポーツによるにぎわいの創出							
	小柱	①プロスポーツチームとの連携							
目標	本市を活動拠点とするプロスポーツチームのホームタウンとして様々な連携を行い、トップアスリートと子どもを中心とする市民とのふれあいの機会を創出することで、スポーツに対する関心を高め、本市のスポーツ振興を図る。								
目標達成に必要なこと	子どもたちがプロスポーツ選手と触れ合う機会を創出すること								
具体的な事業内容	横浜DeNAベイスターズファームチーム：選手が小学校へ訪問、コーチ等が幼稚園に訪問 横浜F・マリノス：コーチが小学校・幼稚園・保育園・こども園に訪問								

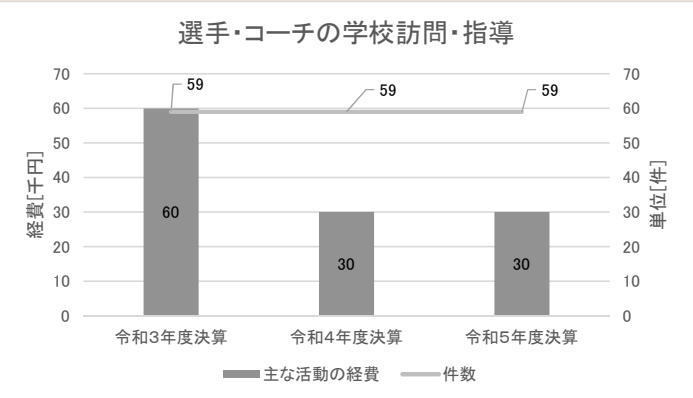
（２）本事務事業における主な活動の実績

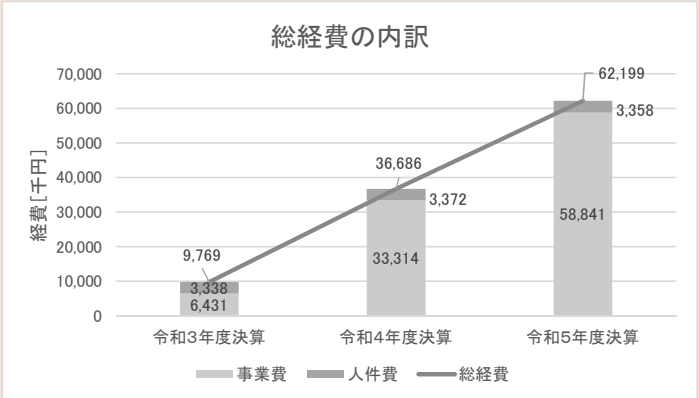
主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った**重要な項目１つ**)	活動（指標）名	令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
① 選手・コーチの学校訪問・指導	件数	59	59	59	件
その他の活動実績	**活動（指標）名**	**令和３年度**	**令和４年度**	**令和５年度**	**単位**
② 横須賀市こども招待デーのチラシ印刷・配布（ベイスターズ）	配布数	29,000	27,870	0	枚
③					

（３）１年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区　分	令和３年度決算	令和４年度決算	令和５年度決算	令和５年度予算	単位
a　事業費（予算現額・支出済額）	6,431	33,314	58,841	79,525	千円
主な活動の経費（※上記(２)①）	60	30	30	30	千円
その他の活動経費（※上記(２)①以外の経費）	6,371	33,284	58,811	79,495	千円
b　人件費	3,338	3,372	3,358	3,380	千円
正規職員	0.4	0.4	0.4	0.4	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	0	0	0	0	千円
総経費（a　＋　b）	9,769	36,686	62,199	82,905	千円

（４）年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(２)①）】と【総経費の内訳】）





主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R3年度⇒R4年度	マリノスの巡回スポーツ教室事業の実施については、企業版ふるさと納税を財源とすることに完全移行した。	主な活動に係る変更点（※上記(2)①）R4年度⇒R5年度	特になし

年度ごとの推移の分析（【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等）	【主な活動実績】 （令和3年度→4年度）前年度と同程度の実施ができた。（ベイスターズ・マリノス） （令和4年度→5年度）前年度と同程度の実施ができた。（ベイスターズ・マリノス） 上記⑵②のうち5年度については、こども招待デーの開催時期が遅くなったため、チラシ印刷発注時期が翌年度となったことに拠る。（ベイスターズ） 【総経費の内訳】 （令和3年度→4年度）「F・Marinos Sports Park ～Tricolore Base Kurihama～」の整備に伴い、電柱ラッピング等の街なか装飾や企業版ふるさと納税を活用した循環型社会推進施策など新たな施策の実施により増加した。（マリノス） （令和4年度→5年度）久里浜駅自転車等駐車場と消防団第40分団詰所に壁面装飾を行ったため、業務委託料が増加した。（マリノス）

今後の事業の方向性	引き続き、プロスポーツチームを身近に感じられる環境を活かした取り組みを実施し、追浜・久里浜地域を中心としたスポーツによるまちづくりを一層推進していく。